

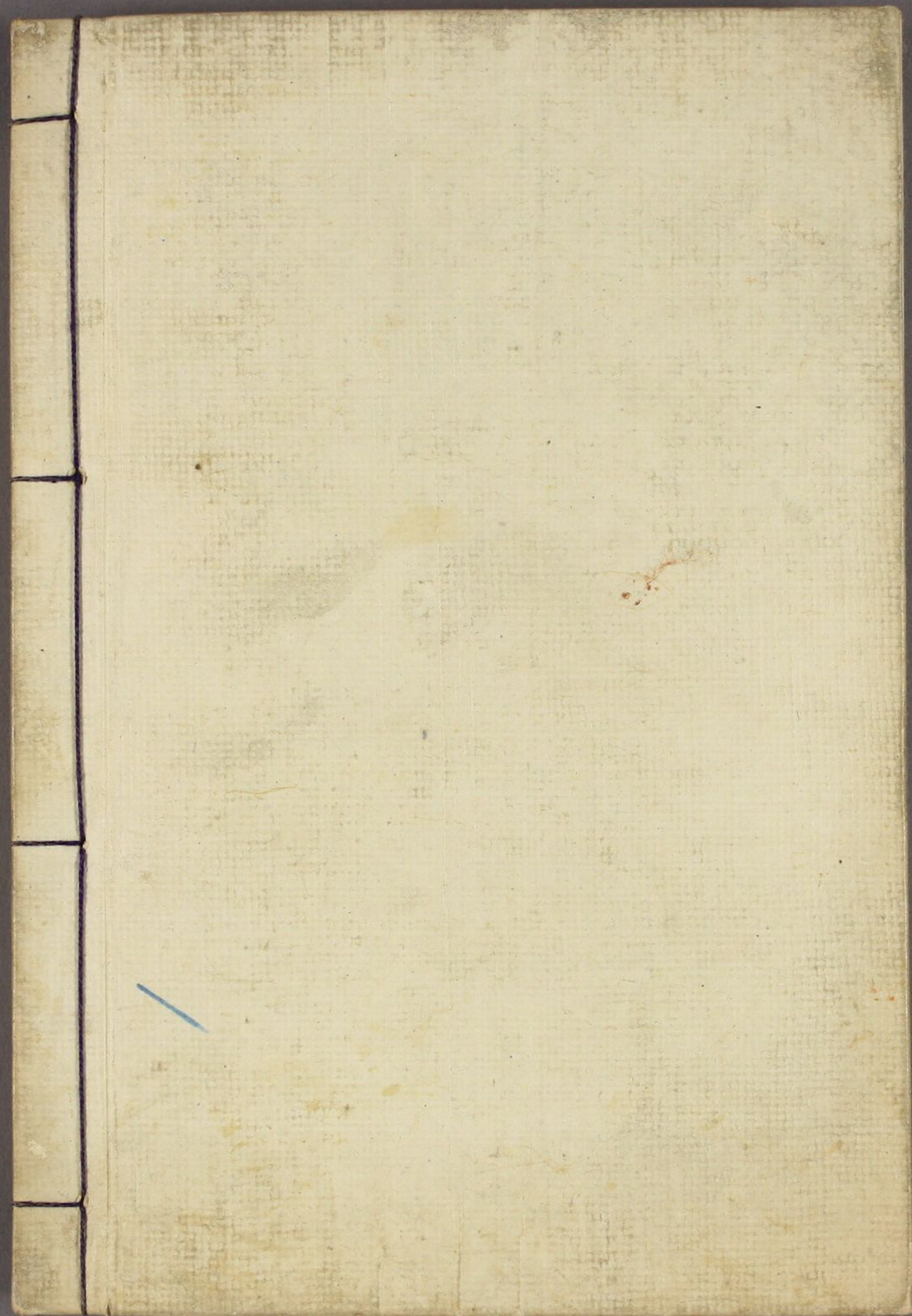
淺瀬の波

第二編

上







波



許

免

權

版

標準
初學

波瀾能波

第二編 全二冊

大勲位山階宮晃親王御題字
御歌所長高崎正風大人序歌
權掌侍 稅所敦子刀自序歌

谷勤大人序文
池袋清風大人著

案山子乃舎社蔵版

波瀾能波

茶

乙



襟
頰



明治二十六年
六月

大勲位
星野親王



叙文介の歌

漢之徳風

故東乃其

thorpe 581

上

五

上

上

Handwritten text in cursive script, enclosed in a rounded rectangular border. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries.

D 1 B

Handwritten text in cursive script, enclosed in a rounded rectangular border. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries.

その中れと前にいふは、
この海は、
なほ、
一、
ふ、
る、
て、

そ、
る、
に、
を、
を、
く、
る、

都よの春もまげんあしらの山ささいまささきそふりりや

津田久之

紫人のかよふ道のこきさえて春も志しぬ山の奥うね

磯貝由太郎

麦細うつとゆる雪もきうそめて勝ら垣よよ春風そよ

竹内梅子

早春若菜

おのよから根芥つんときたたれも跡はの水いほこほれ

下村房子

初春鶴

あきよたほさの根芥摘まきてま舞ふ影の影をさる

早野竹藏

氷解

ちる風よやほの氷どけふりあれこころもわらけうら

佐藤惟昇

春色浮水

あさこのいさ小川もまの雪のあつる春もあけりけ

三輪源造

山朝霞

山の場う消のころころあゆの月よあかひく物うそみか

松本顕二

春うそみ極ひきこころ山の場のかのまよこに朝白のけりぬ

宇佐美祐次

折にふれて

清のうそあありてもささゆちりこの物あ雨よなうら

磯貝由太郎

あさほしけ 新波の浦をさきくはをかきみて見えずのちり清山
池袋 清 風

貝拾ふもとの袖もみえぬまで干涸るるにあらまきり
尾崎 万喜子

けしきまごかきみくして三浦江の玉江のふゆれり
三輪 源 造

お見よは八坂の里れあらまきの今ねのうまみれりけり
下村 房 子

春もみたる引にけり言砂の松のこももみえわぬまで
磯貝 由太郎

霞中鶴

おーてるや 鐘はのおまきのほのくとかきむあさけは跡つり
木村 忠 彦

子日

かきりなぐうけききものとかきりぬきさ小松をたられ子日ありけり
福田 千代子

梅

雪のまて啼しより梅れももまらるこころををれ
津田 久之 之

折梅

小笠もろのこころををみりけりつあこの梅を折てけるかな
伊丹 義 衛

夜梅

大そらけ月とおほらよみえかろろ山雨ふるた梅のまををる
藤尾 春江子

藤尾 春江子

笛の音もどほく聞えて春のよれもあらず月夜は梅の香をまら

月前梅

市村 高彦

久うこの月の光霞み多のまその梅のほきそめしよ

雪中梅

池袋 清風

雪をのそ拂ふとあひの おさねは梅はまひのましける

水邊梅

みとら鳴流山川の月瀬ようつもさむし梅はさるはな

津田 久之

春夜ひとまらさひく川上のうめのまやに月そのとれふ

官原 景賢

香をとめて舟にきくれを川上の梅はさるいまきにまらぶ

折にあれらる

山田 文枝子

のさかまなく雪にあくうれて梅さく野くにけりまらう

早野 竹藏

雪の末つしひちうす梅のま柳とるさうつきにうかひける

月の瀬の梅見にのける時

橋本 奇策

月の瀬の梅はさるや近うらう山下月をまふみわらふ家

暁更鶯

下村 房子

うぐいまたあうらううさかしめかしのまふをしも思をさうりた

伊丹 義衛

そととめく梅もさけりてよそをのほひつとみのおく小雀のなぐ
寝覚鶯 よみくし

鶯のまそあくおりにいたがさねいの夢をさすしつらうね
霞中鶯 北村 縫子

のこかよわかきみづうな小松をらぶうらひまのおもきこそそ
窓前鶯 川本 辰子

うらうらと朝日をもしてあすのうめれ梅よりうらひまのそ
中島 茂子

朝なりく夢のまとのくれけけふなれともあうくひすれ夢
有栖川宮の御會始よ柳間鶯といふこと

を

官原 景賢

春柳のいとまなきまそ梅れ本つこみ春よありにあらうれ
梅林鶯 池袋 清風

山さとの梅れやのをららうらうらうらうらうらうらうらうらうら
竹林鶯 湯浅 吉郎

咲むも葉ころにみゆるくれ竹の林のあうらうらうらうらうら
水邊鶯 宇佐美 祐次

あけ氷とけてなうらう谷川のきうのふさうらうらうらうら
山家鶯 静間 秀子

山さとのかきねの香も消えてあて梅れうらうらうらうらうら

石光 守家子

梅のむねをのしりうくひものなぐねいりれきやまのへれ里

久しくわらひるるの春雪のさへつるを

きいて

木村 忠彦

たれよめてかきねの梅もさるまじりふなりぬるくひもの春

田上若菜

山口 鶴子

も閑ちる春の山田のをらうらに若かつひ子のかけもみえけり

水邊若菜

池袋 清風

おうとひ春の野川の柳うけ松芥つひ子のたえぬられ

残雪

三輪 源造

山うけの杉れをやにふいれもつる雪の中ふ雪を乃これる

遠山残雪

池袋 清風

大比叡も山ゆえもかきむ春の日に狂雪をらう比良の遠山

山家残雪

静岡 秀子

春あつら狂風をそそき砂のをのくまらよ跡る雪をうけ

餘寒

山口 つる子

残りなくいけの氷はけれとなふ春風のさそつるうれ

折よふれらる

畠山 一郎

昨日けふのまじとす連と吹石よいまは夕風の寒くも有るな

春雪

岡 寿美子

梅枝をちりりとみそて起さらまのにおちる月よにあり雪をふる

春雨

佐倉代七郎

家うらの川をひ柳をえさるる 淡雪まうりたる雨そふ家

市村高彦

花をんとちきりし人もあつたのをねもそれぬ春の雨を

夜春雨

伊丹義衛

かそらぬ 田中の里のどよりひめけうちかきみ春雨をぬる

田家春雨

陸なくおしもさひきき 小山田れくこの庵にさるる雨そふ家

草庵春雨

佐藤道子

花さけとどふ人もなきよのやとつゆくとあつ春のあはれ

海邊春雨

湯谷磋一郎

船かやうられさる雨をさるる沖程さるる潮をけけ

春雨晴

林陸夫

雨をけけいさねつきの柳をらつぬおとろき程をけけ

春草

堤鉦太郎

昨日けけ垣のの山草をえそめてや道さるるけけ城さるるか

野徑若草

池袋清風

前そや 野中のみちれあまそとあまんとをきさるるちをれ

春駒

三輪長行

花うけふ今日もひびく春すなり弱のゆるかきてそけん

井上通泰

世をかくやあつたの牧のさる弱もつらうしてこそんすられ

池袋清風

おちろよの月たうかれて鴨川の柳はひきをゆきこりけ

大八木幸子

池水は浪志つるのゆるあさたよもきーの柳とちゆらさつ

磯貝由太郎

糸入てみつうよ弱の思うまにおがひくちり春柳のゆき

高原照彦

渡柳

わーちつらゆらん川春の柳のゆきよいねとつらきて

中谷信治

里柳

いそいそ人のこころのなひらんまのほのまやらのゆき

津田久之

故郷柳

たらねの母とみみうーいそいそのかさねの柳いそいそゆらん

徳富久子

柳似煙

あつちを山もとの柳とらけうららのこもみえりうらな

湯谷磋一郎

霞中春月

おちろよもかきあつる月とらすきぬをわける春のこころをすれ

中島茂子

けほ娘のなごみの袖はくれはる月をこころにわづかりけし
道木 奎次郎

花間春月
おもしろおきいてとまて庭園の花の本のすふ月をのこる
木村 忠彦

野春月
まゝ菜さく世辺のころ風ふきやみて総月よたさるよけり
川本 辰子

海上春月
橋廻つうくうさるふゆをたほいさわづりけるれよのつき
湯谷 磋一郎

折よかれさる
まつ人のありとそなりにもあちよの月ようかれてさうつうれ
中谷 信治

歸雁

百子を誘ふ春をのけきをなと原のよのおもひたつらん
朝雉子
金田 辰馬

春雨のそりををのけはるそれを朝日のをみてきてを唱るり
夕雉子
三輪 永子

暮霞夕日よにわふ園のれれ松のそやにきすすなくぬ
故郷雉子
池袋 清風

にそらりれあさうへも世とさうてきすす啼まをありにあり
椿
井上 通泰

つとさ咲甲の竹むらしををあみあさる花のをせもみえら
春の頃京都の學校よてよあり
望月 か紙子

あふのひがあをいもあひいそね学のみまの枕さびしより

雨中待花

高松新子

春雨のふるをうけしき待てる山のさくられ咲くとおの人は

閑中待花

日高光子

獨のそ花をらうに春の日を今朝もきのみれうらうをすれ

尋花

池袋清風

夕月のかけをふてのうらうれ山道のむをたつよらうて

日高光子

桜をれをらうらうぬぐのみまこ山下尾よるやからまし

朝花

伊丹義衛

夢の了ももきこえて朝露のこぼるう花みさをあさひうけ

夜花

望月な枝子

おのよらうらうらう遊ぶを月夜のとらうのうたうけ

月前花

池袋清風

桜をれをらうらう山の端よ控よをのこすありぬのつき

竹内梅子

いつれもふられらうらん花の上よおをら月夜のをけをみはへる

雨後花

前嶋睦子

るる雨のなうらのあもからうらうてぬさうら花よあさ風そふく

水邊花

川本辰子

山川のうられみなりにならば花うららふけのきやうなるか

曙山花

中谷信治

朝うらすまゝ起たぬ山の端れあらむ花のひりりけを

遠山花

津田久之

あゝこの柳のひやにみゆるかき山のてれ山さくらはな

都花

津田美歌子

大路ゆく風もにわひて昨日よりみ空この花はさうりなりけを

山家花

中谷信治

たよりあらふ都の友に知らせん 家山さうりのてれ外のさうり紙

望月お民子

花うけいめく弱の春すなり都の人やたらぬきうらん

林陸夫

この奥も程花ありとゆひさしでさかりをほる春のやまぢ

幽栖花

道木杏次郎

空蟬乃この世れ外のうらせり花よもれる谷のたひほ

花のうたよみたる中に

岡すみ子

急をのまあらゆるわれと人といふこの世を何あふかへき

上野に行幸ありたるころ花有喜色といふ

木村忠彦

大君のみゆきまらそとて上野の志まぬきうらあらしをねり

落花

池袋 清風

長閑なる春のこころに似ぬものあまたありけり

藤尾春江子

吹風よあはれ花を移むれあはれをもちぬれを忘れ

磯貝由太郎

櫛をぬきぬれをうらみのこころかん櫛をなれてちうふけつ

朝落花

春雨のちり朝けよ風たちと共もちるさくら

夕落花

富山 一郎

はやくと雨うちけちうゆふくれの庭さびしくもちる櫛うな

夜落花

津田 久之

おぼろ夜の月をみえちる春雨のそよぶ庭にちるさくら

水上落花

久保 莊三郎

縦夜の月も浮へるいけみにちりこをかれ山はくらをれ

舟中落花

鈴木 左馬次郎

大井川かろちりし棹さしてあそびをみにちる櫛うけ

山路落花

中村 とし子

春涼き山路をこゆる我神よそらひもあはれ花をちりける

磯貝由太郎

ちる花のあはれをりけてこころを朝風さす志賀の山みち

山寺落花

池袋清 風

昔の中代ちりよもろれぬ山寺の昔のむらにちるさくらうた

山家落花

岡 寿美子

あし引の春山さくらちりよもろ 都の友のおとられぬま

禁中落花

松本 いさ子

殿ちりよもろいきよめし九重の雲井の底よちるさくらが

名所落花

磯貝由太郎

よりの山昔を志のふたろれり 雨打けちりちるはらうた

落花入簾

池袋清 風

白ひのこかよふとおやひいぬたまのをすの内までちり揚りけ

花散春開

尾崎 吉 従

ちりて青葉よもろし 春山の志つけき春をこふ人もうれ

遅日

財部實 秋

さくら花ちりなえ何よくらへきんつあるした長き春日を

春山家

磯貝 由太郎

春山の花よもろつるもどろけ春うまらりて日もろれよけ

蝴蝶

岡 すみ子

笑むのみほひうつさるわの袖よりましく蝶のむつれくる

村山 今 三

春女子のかさの花乃ををとめてむつる蝶のちりよもろ

春曙

大西

祝

月うけも花もひびくは打かきみまうとわらふ花わらけうれ

原峰子

ほのくと花のまやもみえそめて風こそかをれ春のあけをれ

池盛清風

川春曙

大なる川子智のあちにあつむのふくさもさむき花わらけうれ

佐藤惟昇

春夕

ささるふ松のあらもさうもみ春のゆきも林うりけり

川勝為子

春舟

やうた舟えぬ日もなす隅田川堤のさくら咲そめうり

春旅

橋南

浩

梓弓春こそ旅いたのうれはさうらみれ花かけあて

春興

鈴木左馬次郎

いさ子とも小舟つなきて川岸の柳のうけお志さあそさん

春夜興

道本 本次郎

そことゆきさうらあつきに更よかりおわら月夜のさよううりて

雲雀

岡 すみ子

花よのみ人かううり春の日をそらにあうりてかくいさうりうれ

佐藤惟昇

つれなきも董のそこをよそにんそてやまひさうりの雪くらげらん

曙雲雀

伊丹 義 衛

山のたれおもほのふみえそめて 吹野にひたりなくあま

朝雲雀

池袋清 風

朝露よぬきー 葦もかきくらん日けよほひてひたり鳴かり

旅雲雀

春の夢のいじりの夢もうき旅の夕よまけを 淋かりけ

朝菫

岡 すみ子

朝露よにおへるゆくのみまきまつみそかりん 袖をぬるとも

野菫

財部 實 秋

夕くらちるかこのみの花まきまき音あふよ 自由こらうそま

野遊

青木 まさ子

こころけき学のたちをまきてころのすみまつむそうけき

神谷 久 和子

花あふれ月けふみそゆるれ 菫吹野ふけもくらうて

雨中燕

竹内 竹 子

雨うて訪ふ人もなきまらやにこそ燕そくり来ふけ

故郷燕

磯貝 由 太郎

まむ人も今もかけりーあまきの朝場よかろつそくらめれ

山家燕

池袋清 風

花あふれとふ人もなきまらやのうらうけくかろつはくらえかな

田家燕

磯貝由太郎

種あるす苗代ありかきみえてつとわ飛なり小山田のささ

折よふれさる

木村忠彦

つとらあ古巢つころふすすめり雛もあらさをかすしひらん

月夜蛙

畠山一郎

我がどの川そひ柳うちかきみおちる月夜よかすつなくあわ

雨後蛙

白神敏子

春雨のそりし門田の苗代は月もうかひてうをらつるくなり

田家蛙

徳富久子

雛やの朝のつまがし咲そめて垣根の小田にそつひさる

磯貝由太郎

まの門はあ田のかさつ鳴やみぬあせ及つそひ人のけらん

山家蛙

畠山一郎

そちうそ人のき蛙し山さきのかさねはあふこのつ鳴たあま

故郷蛙

中島茂子

山吹はあきもふらぬあやのふる井のあま陸あまの

名所蛙

池袋清風

ありし山をそくくさおほるよんかそつあう也ひろ沢の池

水邊山吹

堤鉦太郎

陸まぐ田川は岸にあまひきむらさきの山あまのそり

故郷山吹

山田 篤子

ふるさとのおれはる庭に池ありさねとまみたり山吹のそね

おれよふきこる

村山 令三

少女ふり手ありを降る山吹のむむむのそねとふこてふふふ

躑躅

川本 辰子

おれはふゆふゆのそねとまみたり山吹のそね

祠頭藤

高原 照彦

神垣のねとあまのそねとまみたり山吹のそね

山徑藤

磯貝 由太郎

山まのねとあまのそねとまみたり山吹のそね

高原 照彦

やまのねとあまのそねとまみたり山吹のそね

暮春

大西 祝

ゆふを神よみそに花ありてくらも春をおりろさうれ

江間

喜代子

ふゆとれはま山吹もちり果てて春をかきりにかりよけるうら

夏歌

首夏

池袋清風

おそさくらまこのれとも人こちあふうつる夏いあけり

首夏風

竹内竹子

雨さきあきこのを吹風のまきき夏になりあつるれ

首夏水

橋本禹績

浮くまの志けをるれと池水の時の上あり夏を来にちる

山家首夏

宇佐美祐次

木のめつむらさきとてあきとす宇治の山さハ夏めさふり

田家首夏

中谷信治

この頃も雪雀の春もたつめきてかゝるの麦生いりつきたり
更衣 八十四翁 菅 香 雪

お妙の衣よかていなり山あさまうてする 神一のむろまん
折ふふれこる 宮原直二

うら葉つひ未通女の袖もひくくう葉のそやに新風そふく
新樹風 池袋清風

花よ碎ふこころの夢もさるぬへー 春さうよふあさ風そふく
雨後新樹 中谷信治

雨さきうまゝの春さあにともー 山の新もうつりて深うりけり
水邊新樹 神谷久和子

朝風よ他のうさくさかゝりてうつるあそみのけの深さ

祠頭新樹 磯貝由太郎

風よる若きめのひいたうあをぬのみをこ深くおあひく見ゆ

新樹連軒 佐藤惟昇

アツ楓新端つきた打鹿さききく見ゆる山のまのさと

あら年の夏伊香保よものくるとき 辨天の龍

あまうりて 湯浅吉郎

瀧つきのあきたねまうー 谷うその若きあれをすー さ

水邊卯花 中谷信治

うのをぬのかけもうつりて谷川のちうれきー き夏あまよけり

籬卯花

財部 實 秋

わづやよの卯花うきいゆひもせしころけしにさうせてそらら

蕃薇

藤尾 春江子

山さけの躑ろかきねのいざら井はうそらめ花ようつりれはより

朝蕃薇

佐藤 惟 昇

あさ戸中の袂まきく吹風ふかきねのうそらうをりきたり

雨後蕃薇

中村 敏 子

雨をりし野川のきりけ夕風よ涼しくかきろ花うそらうり

夕水鶏

池袋 清 風

渡しまつ淀のつみれ夕まされそとよりしはくいま鳴なり

月前水鶏

中谷 信 沼

棠の戸よさしる月の影ふけを門の小川よくひなあくなり

前嶋 睦 子

文ねるもの継りまうりきき絶て門田の月にくを卯し鳴あり

池袋 清 風

やうと極ぬ垣根の小田ふ月澄てあ影なりく夜をねられさうけ

山家水鶏

江間 喜代子

山さけのけひのあれききよてきひきよそにあ影なりくあり

行路水鶏

二俣 貴 光

乃のへのまきかきれふりあれききよそにえそくひの鳴あり

折にふれらる

三輪長行

時をたも川をまらまのつれくに郊花垣をゆひのふらり

湯浅吉郎

子規

世小いそと啼とをすれとほとまに言とそららのこびりの法

宇佐美祐次

夕子規

夕月のあけもほのめく栞雨の雪あふなるほとまにほれ

三角多豆子

月前子規

郭公啼とこびかたのをり此本をよに月いそふけ里

中谷信治

ほとまにほるまあしてもふたり月張月のよけをのりて

上ノ二十

雲間子規

池袋清風

大比の山路をゆけを相雪のうつむ谷あふなくほとまに

佐藤惟昇

雨をこのかたれる筆たまつをら山布とよにたつとこころなり

磯貝由太郎

海邊子規

月清と舟漕とこれほとまに磯山つとひかきとこころなり

財部實秋

海上子規

わとまにほるまあしてもふたり月張月のよけをのりて

岡甚と子

菖蒲

あまれすすれうとそは夕風うし朝のあやめの雲そとほる

水邊螢

くれくる野川のまじりを吹風ようをらわたりてほたる飛たう

中谷 信治

田上螢

日高 光子

極まて一門田のま苗露みえてひより涼くこわあたるみね

行路螢

池袋 清風

大さうれ入りのつみり種ふおくれさびたあともほるかな

閑居螢

畠山 一郎

どりー火のまけあさうねるふくれかの垣根のまのたわらるお

江上螢

柴田 静栄子

ぬまのねむりつらー難波の河もよもいまで螢とあまる

上ノ廿一

港螢

山田 文枝子

みねとほのあまをくらきくぬみお窓ちうくとお螢うれ

山家早苗

中山 咲子

あよそさめくとうらん山さのあまねの川そうもあうりせら

山家梅雨

藤岡 ひろ子

梅の葉乃おつるもさびーわー引の山つちのさみされのしゆ

故郷橘

磯貝 由太郎

まはのくぬのあまをさうとれむうのををさるよるかな

尾崎 官一郎

あつさうをむうーをあふんかなー花橋をけきとあふへやも

橘薫風

柴田 静栄子

吹風小花うちらるるのむらさきをきこむればあつうき夕月夜に

紫陽花

中山 咲子

はらうたれぬをよせまた見ゆる雲色よ候や夕月あちさおれむ

鶉川

中谷 信治

夕月のかけをうねてなうら川 鶉舟のかうみそそのふたり

園夏草

池袋 清風

夏草もみかぐ刈でみそめは春のうめれおれをまれ

折よふれ

井上 通泰

折よふれをむらさきの川のおけよふねけりさけるおのむらさ

新竹

米沢 與十郎

おもよりもおさるる工足ゆる若竹ハひらけけ世の姿なるん

夏風

竹内 竹子

若竹のまきき葉よおける露ちりて秋風をよー山のまきき

夏旅

高原 照彦

あさあさおれをよへたまつの下露よ種をぬらしてけ旅路に

蟬

竹内 竹子

さみよれの音をよれそあさ夕日さす思へたねよ蟬を鳴やる

川本 辰子

こ夏休よよむるも 陸をてて 桂のさくらに蟬をなくぬる

橋上夏月

下村 房子

たそがれも月てかりさる橋の上を立やまらぬ人なりけり

池袋 清風

雨後納涼

雨たれしすの若葉をふく風よこほりし雨後のまは涼しき

竹内 竹子

月前晚涼

ゆゆみしき暑ささききり夕ぐれふ山は塔つる月のすしき

前嶋 睦子

水邊晚涼

夕月が光もあよみえそめて汀よりよきる波のまきしは

磯貝 由太郎

打よふれしる

笛たれし 松をららけに夕日うけ踊るもさきし小山園のさき

上ノ廿三

朝蓮

藤尾 春江子

朝風もまよ吹たぬ池の面よりけちすの音の涼しき

石光 守家子

大くらげ入江をこらあき風よ涼しくかざる花をちすのれ

木邨 忠彦

草花先秋

山さけの清めくまんとまよれぬまは萩のあそうつま

市村 高彦

蟲聲先秋

八月わくら生志けりしる秋をまよそ思をたしめ

秋歌

立秋天

磯貝由太郎

久々の雲のみあけ きてはさそふ秋まかりにけるうね

朝立秋

北村縫子

この朝け乃きのきこしをうこかて 吹たらふり秋の初風

田上立秋

甲丹義衛

小山田は稲をうの上の露ちりそ 秋の初風

宇佐義祐次

苗さけ夕日かけろふ 藤田のいなををこころ 秋のまわりを

明治二十三年八月立秋の日鎌倉の由井の

濱めて

池袋清 風

あまのやの旅ねのこよひひくちう秋をよせくる由井の浦渚

田家初秋

藤尾春江子

わらわの稲葉の上のあはれ露の目につく秋よかりあけるう柳

折よふまじくる

下村房子

ありまてねきよめたる袖の上へ桐の一葉のおちてけるう乳

鎌倉よて

池袋清 風

残の家の園のまろく徳よつそ秋風すかま倉のきと

蝸

磯貝由太郎

八相のかねしきこえぬ山うけふ夕をつけてひくら一れ那く

杉林蝸

阿部通 規

夕日うけたえくのころ杉むらに啼日くらのおみはひりさ

山家蝸

大森日 折

あうねさす日をかけろひて日くら一の鳴音淋き山うけのみを

萩

尾崎 吉 従

秋風のたえすおとさる萩のきもあはれはくのしまありけり

月前萩

中谷信 治

大そら月ひまのくそらせともうろよさる萩のうそ風

深夜萩

下村 房 子

うかさをおもひつるひらねの心もらぬ萩のうそ風

閑居萩

伊丹 義 衛

紫の戸よさきや夕日のかけきえて吹おとせし萩の上うを
故郷萩

磯貝由太郎

あつさこの庭の萩系をせたえそきひきよまた村あそふ家
雨中萩

中谷 信 治

朝夕の露もかひく秋とまきの花のさるりにむらるるを障
荒庭薄

橋本 奇 策

ひもなき招くをこゑを花をきおれらるやとのまなるらん
籬 槿

米沢 興 十 郎

露のまだ命もあらず紫垣ふさぎし打あむ花うねのそ那

草花

中島 茂 子

をみなくし尾花葛あいらくにゆめみ秋もなかりにけるけれ
月照草花

日高 光 子

さをしうけたるもまこえて小萩系おくつゆさむくてる月夜が
夕 露

三輪 ちい子

秋風もあつまりをそく夕露れなひらりこほる萩の上れつゆ
青木 まさ子

青木 まさ子

この夕萩の上風ふきやみてひとりこほる
萩のさむけさ

江間 喜代子

秋涼も庭のあきらもいろつきて夕露さむく成まらるるな

風前露

前嶋睦子

わらわちる家候も似るうれ風よみくも葉の上はゆ

山徑露

村山令三

苔ふろき岩かまつひびみちにぬおとさむし杉のつゆ

折よふ建て

木村忠彦

秋はまて海のらねともすみそめ此夕のゆあみけくききうれ

深夜蟲

三輪長行

吟虫のあつをうらもなりにけり文みるほくとにぞやあねらし

雨夜蟲

橋本奇策

よもきうら意お雨にこほろまのあたまをさしてつえらるかな

月前蟲

伊丹義衛

おがひくうきねの尾花あまそむのききき夕月夜うれ

福田みろ子

露をきあまらちまはらになくむのあまさをみて月更にあり

野蟲

道木全次郎

蒼なきそめたありきのつらもひをうあまじ砂のちをらに

撰典

財部實秋

宮人のえらひよりれぬうけさをあまたてむむの啼らん

秋夕

湯浅吉郎

山のそよ風はひりそそく雲の色はかろもさびし秋の夕ぐせ

橋本 奇 策

苗さす夕日のうけもきえそそ風のおとさびし秋のゆづれ

松本 顯 二

つづくとならむほかに夕つもあらそはなかり秋の夕ぐせ

岡 秋 夕

夕日さすをのれ枯木又鳴鳩の存ものすこしあきの夕暮

磯貝 由 太 郎

立眺の羽おくもきし材目のうろ船の浮の秋れゆづれ

中山 咲 子

いられた袖も露のおまつらん浅茅う庭のあきの夕ぐせ

上 丹 八

旅 秋 夕

堤 鈺 太 郎

山うけの小毎あそらの夕暮にまの縁ころもち志あり々

市 村 高 彦

雲も消えあらもたえし大空にみちる月の影のさやけさ

三 輪 長 行

いつれまふるをばさるんあひきの山のおそよ月をほのぼく

佐 倉 代 七 郎

家まとのあかりさうしにこれ竹のかけこそうつれ月やいつらん

大 西 祝

みづけともくもりかちるころをいあをれとおく秋のよれ月

深夜月

大木 幸子

つる月のかけ清々れはあつまで園の素戸もさくはけりけり

庭月

磯貝 由太郎

虫の啼きをのほきたら露みそそ月のてるおはねらさるる

野月

藤井 政美子

露一けき尾むらそ花あみ分てけり此夏の月を忍るるれ

箱根の山中にて

鈴木 左馬次郎

まねのころ谷の下あきききみて箱根の山此月のさひひさ

川月

池袋 清風

つる月のうけもるるうう山川のまね乃浪のきれきやけき

海邊月

磯貝 由太郎

波のうへに浮へる舟のあきみえて高山つる月れきやけき

須磨よりの一ける時

新島 八重子

たちならふ松をらうにみゆるお月より渡る須戸のうら浪

島月

牧野 信

ちうれよをけかれ小橋よ舟よ舟を渡き浪の月を忍るるれ

山家月

本部 とよ子

紫の戸をまひて見まをる山の松の梢は月をのりぬ

およふれしる

三村 日脩

枕むらのおろしるのきりてさやのよのほりたるを秋のお乃月

月前嶋

武本 幸雄

西脇をれて月をみよる山浮ふをねく嶋のうけもみえろ

月前舟

長尾 柳吉

月天一啼の海系く舟のあき海おくそさやけのりあ

大谷 音次郎

さやのけり月り漕舟舟人のくもきこゆる浪のくへうれ

月前客来

磯貝 由太郎

月清き庭の松老啼やみそ人のとひくるけそみえける

月のくの中

伊丹 義衛

むらさきの夜よぬきくるゆみらきあつるかけき秋のよれ月

残月

磯貝 由太郎

むらさきすねくらをけり敷みそてあひもきあうぬのけき

夕初雁

伊丹 義衛

つくと猫なむむの夕くれの夜かきこるるを月うのりあ

夜初雁

竹内 竹子

ぬをむのよはくらけきと啼くくるるをらかりうみのあうのさやけさ

雨中初雁

伊丹 義衛

むら雨の窓うつおくにねをあして初うりかまの夜をさくうな

都初雁

藤尾 春江子

つくはくのゆめさきくらんふけこるるみやらのそられ初丁此夢

月前雁

幸田 光 潤

秋のよれ月をみのほる大それたにつらなるかりたさうのさやけさ

田上雁

中谷 信 治

ほくきけびつこう色ーあーひまの山田もつきかりうきそする

旅中雁

池袋 清 風

古々のそなううーきまぐれ又晴るそそれ天はうまかぬ

磯貝 由太郎

ふらふらの秋のひけきけりひてなるあるそらにかりなきはる

川霧

堤 鈺太郎

大井川あき霧ううーけりもす袋のささのきをううーして

川霧に舟をかられてみるまとも梓さす人のあまそまことゆる

橋本 奇 策

やまのほも八幡もそのぬ夕霧けうちよからろはあこと字ゆる

財部 實 秋

山家霧

佐藤 みち子

笠粟のあつる言はこ字ゆりけきう海さあだの山は空

田家霧

畠山 一 郎

わさ門の山田のおくてを霧こめてやると秋霧の雲さけさられ

田上秋風

宇佐美 祐 次

群もくめあさるかと田のさ色 豆はさるもはひー秋は夕風

秋風漸寒

三村日脩

きりけきもよそらにありて昨日は秋風寒くなりけり
池袋 清風

池袋 清風

汝あみ一人のぬりて秋風の吹あそびしにかきくらしきや

秋夕雨

三輪 源造

やまの里の竹のそとに村のありて秋のゆふぐさ

月前秋雨

松本 保明

大そらに月をさやみにてりぬらるる秋のむらさき

山寺秋雨

湯谷 磴一郎

ふる寺の池の蓮もよかきそめくふるあそびしあまのむらさ

秋夜

川本辰子

更ぬるる月をさやみにてりぬらるる秋のむらさき

秋田

伊丹義衛

をやまこのたう徳の上村すあきとる秋のむらさき

山口鶴子

秋風の吹きたりしに小山田にひるれおとすくやえけうりれ

秋山

赤沢與十郎

たちけあるけうみれぬあきとる山嶺の秋風ゆらに吹らん

秋の日山路をゆく

道木杵次郎

あきとる日山路をゆけしえきとる秋のむらさき

秋山家

藤井 政美子

けのきを語らん山里を月よりあきたらふ人もな

山家秋深

橋本 奇 策

葺持のさうりもさそて更よまこ淋しくなりぬ秋の山さ

福田 ちよ子

わつやまの秋のさびしきさ葉の折らわつる花とけさとして

伊丹 義 衛

雨たけり一峯のみみちに夕照日のさるむさびし山のくれさや

あつあつのさねこのきもみりみて夕を移さし一本の山里

鹿

川勝 為 子

きつて見ればはは家の柄いらつまそて暖城壁のかさ小麻のさるそす

庶聲幽

磯貝

由 太 郎

あやとの朝の松風ふきよみそを山のさるそす家

砧聲幽

望月

なを子

松風のたえあつにひゆるえ流るやとにうつまぬさるそん

砧聲寒

宮原

景 賢

からころもりのきききしゆ掃の曉霜也おきききしらん

浦擣衣

木村

忠 彦

久うこの天城おろし也室をらん下田のうらに衣うつなり

深夜菊

北村

縫 子

ねさめするころのまくらへにかをるぬりよあつたまのふ菊の花

月前菊

伊丹 義衛

あつた菊のほたるまの起よおくを流れ光もさびしありぬの月

暁菊薫

三輪 てい子

有明の月をけりてまもとの戸をあふれまかをるふ菊れをぬ

菊の歌の中よ

福井 大三郎

たらちねの母うてつから植おさう菊のさうりにありふりぬれ

岡黄葉

尾崎 吉徒

をまぬちる菊の柝のうすまみち満もまてに添てりるこのな

夕紅葉

砂場 武

くれのころをのひうりにもみちまの足ゆもさびし山のけれさと

山家紅葉

牧野 信

野の男のをしぬうけを山家の柝の梢をのみちしふりぬ

紅葉映水

池袋 清風

ゆみちまのかけをなうり谷川をみきの帯のゆれをすま

人々とのみち見にのりる時

松本 顕二

おりのまあまのまををあけてゆみちれうけふかふるりふれ

晚秋雁

磯貝 由太郎

かりのこすおくての上よまみえてかりのまき山ふ山田のさと

尾張よありなるに秋の末伝浪の山を

のそみそ

霞まじり 廣田よつて みまをせは 信濃の山を雪ふりになり

暮秋雨

津田 久之

のみらるるものさらすちりて 雨とくに 雲くちりゆく 秋の暮るれ